

第7回 三県知事会議の結果概要

平成26年4月17日

大澤群馬県知事、上田埼玉県知事、泉田新潟県知事は、本日の会議で、これまでの検討成果を踏まえて意見交換を行い、さらに連携を進めることで合意した。

1 合意事項

(1) 空港を活用した相互観光の推進

これまで、新潟から東京間の「縦断ゴールデンルート」について、海外メディアによる情報発信を行い、三県を周遊する旅行商品の造成を図った。

今後は、「縦断ゴールデンルート」のPRについて、海外旅行博への出展等による情報発信及び誘客促進を図ることで合意した。また、国内における三県共同観光PRの継続とともに、北陸新幹線開業を見据え、関西方面において三県合同で観光PRを実施することで合意した。さらに、長野、富山、石川を交えた6県による観光連携について、事務レベルで取り組んでいくことで合意した。

(2) 対岸貿易による産業振興の共同研究

これまで、中国マーケット開拓につながる貿易の促進に向け、中国上海華東交易会への共同出展、三県の中国事務所の意見交換や県人会との交流会を開催したほか、群馬県・埼玉県企業に対し新潟港利用のポートセールスを実施した。さらに、海外における食品輸入規制の早期解除に向けて、三県共同で官房長官に対し風評被害に係る要望活動を実施した。

今後は、三県の中国事務所の相互協力の推進、県人会との連携や中国上海をはじめとした海外見本市への共同出展の検討のほか、リダンダンシーの面から新潟港を利用する荷主に対する個別・具体的な情報提供を強化することで合意した。また、時期を捉え、新三国トンネルの早期完成、海外における食品の輸入規制の早期解除について国に働きかけていくことで合意した。

(3) 三県農業系公設試の連携による調査・研究の効率的推進

これまで、農業、畜産、水産の分野での連携課題を整理し、検討を進めてきた結果、病虫害の防除技術の研究や、コクチバスの駆除、畜産臭気対策などで継続的な連携の方向性が見えてきた。また、各分野での情報交換や各県の成果発表会への相互参加等により研究員の相互交流も進み、顔の見える関係を構築することができた。

これらのテーマについては、これまでの取組により一定の成果を得ることができたため、今後は、研究会というスタイルをとらず、高温に強い米の品種改良の研究やコクチバスの駆除に使用する電気ショックボートの相互利用の検討など担当者間での連

携を継続することで合意した。

(4) 「三県防災協定」に基づく取組状況と首都直下地震への対応

これまで、平成25年1月に締結した三県防災協定に基づき、防災担当課長による連絡会議を設置し、首都直下地震等を想定した広域応援の検討や平時からの協力体制構築に取り組んできた。

今後も引き続き、首都直下地震への対応として、広域避難体制の整備や災害時の物資調達について検討を深めていくことに合意した。また、防災訓練等における連絡員の相互派遣、新潟県防災グリーンツーリズムの取組及び住家の被害認定調査研修を継続することに加え、本年2月の大雪対応の教訓を踏まえ、平時からの協力体制を強化していくことで合意した。

(5) 医療体制の整備

これまで、三県による医療分野研究会を開催し、将来を見据えた医療提供体制の充実や医師などの医療人材の確保等について、連携の可能性を検討してきた。

今後は、本日の意見交換を踏まえ、国への働きかけを行うとともに、広域連携により効率的な救急搬送を行っていくことで合意した。

(6) 個人住民税の特別徴収推進

本日、新たなテーマとして、個人住民税の特別徴収推進について、三県における対策や課題など、意見交換を行った。

今後は、本日の意見交換を踏まえ、各県の事情に応じた特別徴収を推進するとともに、特別徴収を推進する上で、効果的な取組方を共同で研究することで合意した。

(7) 和食文化の活用

本日、新たなテーマとして、和食文化の活用について、三県における連携の方向性など、意見交換を行った。

今後は、本日の意見交換を踏まえ、三県で和食の活用策などを検討することで合意した。

2 次回は、埼玉県主催で開催する。